

庄

八

堀川を歩く

「堀川生まれの庄八が…」と盆踊り唄に歌われる堀川区は、市内南西部に位置し古くから開けた地域です。星宮神社がまつられる周辺は「堀川館跡」とされ、案内板に次のように書かれています。

平成9年度の道路工事に伴う発掘調査で、奈良・平安時代に使われた土器、鎌倉時代以降に築かれた館跡の堀跡が確認されたとあります。

この館には千葉氏の流れをくむ堀川氏が居住し、1590年ごろには堀川城主として椎名山城守やましろのみしろが居城していました。

今でも館跡にまつわる伝説が語り継がれているそうて、取材で訪ねると神社や館跡が夏草でおおわれていて、「夏草や兵どもが夢の跡」の句が浮かびました。

盆踊りは、盆の時期に亡くなった人の供養するための行事とされています。昭和49年に「八日市場の盆踊り」が千葉県の文化財に指定され、「権左が西国」「東上総」とともに「庄八」も盆踊り唄に登録されました。「庄八庄八多けれど 堀川生まれの庄八が 縁に引かれて 野手村へ 野手村三次にさそわれて 所の商売舟乗りよ…」と続きます。

堀川村生まれの庄八は、縁あって野手村の人となり、漁師として妻と暮らしていました。ある日、しけて荒れる海に漁に出て遭難してしまいました。残された妻は、悲しみのなか雨の日も風の日も野手・円長寺にある庄八の墓まわりを続けました。その姿を見かねた住職が盆踊り唄に詠んだと言い伝えになっています。

庄八はおそらく江戸時代中ごろ以降の人で、野手と堀川に「庄八屋敷」があったとか、その墓は戦前まで円長寺にあったなど伝わるものの今となっては確かなことはわかりません。

「権左が西国」でも西国三十三か所観音めぐりに出かけた夫・権左の留守をまもる妻が歌われています。盆踊り唄には当時の話題や名所などが歌い込まれました。

明治・大正時代に俚謡りやう(民間のはやり歌)として当時の『郡誌』などに載せられた盆踊り唄は時が移るなかで、この地域では歌われ続けています。

(元 市職員・依知川雅一)

問 秘書課広報聴班

☎ 73・0080



千葉氏の流れをくむ堀川氏が居城した「堀川館跡」